

2008 Student Campus President
活動報告



I. はじめに

大学改革は教職員のみで成し遂げられるものではなく、構成員のひとつでもある学生の協力も必要であると考え、本学では2008年度より *Student Campus President* (SCP) を各学部より学生1名ずつ選考し、大学運営に参画させる取組みを始めた。SCPは欧州の大学で置かれている「学生副学長 (Vice President)」を参考にしており、このような学生の大学運営への参画は全国でも事例が見られない。SCPを通して学生の視点を大学運営に取り入れることで大学のブランド力を向上させ、オンリーワンの大学づくりを目指している。

i. 制度概要

人 数	4名（各学部から1名）
任 期	1年間（8月から翌年度7月）再任なし
選 出	立候補による選挙
活動費	1人あたり30万円
その他	学長より委嘱状の発行 エンブレム付きブレザーの支給 執務室の設置（薬学部棟1F）

ii. 主な活動内容

- SCPの企画立案による大学ブランド力向上プロジェクトの推進
- 学内施設・サービスに関する改善提案
- オープンキャンパス等の大学行事参加
- SCP活動の広報（ブログ、学内掲示板等）
- その他大学プロジェクトとのタイアップ
(大学教育・学生支援推進事業、キャンパス内クリーン作戦、環境保全対策委員会など)

iii. 会計報告

08年度収支報告(単位:円) 09年度収支報告(単位:円)

収入の部	
科目	小計
SCP活動費	800,000
その他	0
合計	800,000
支出の部	
科目	小計
物品費	設備備品費 38,960 消耗品費 61,129
旅費	国内旅費 18,230 国外旅費 0
合計	118,319

収入の部	
科目	小計
SCP活動費	1,200,000
その他	0
合計	1,200,000
支出の部	
科目	小計
物品費	設備備品費 106,680 消耗品費 34,532
旅費	国内旅費 3,500 国外旅費 0
合計	144,712

II. SCP 会議

i. 目的

- ・SCP による活動の企画立案
- ・各プロジェクトの進捗状況の報告及び今後の活動方針についての意見交流
- ・その他議題の協議

ii. 方法

構成	SCP
	事務職員（学生支援課を中心）
	その他必要な教職員
開催	月 2 回とするが、必要に応じ臨時に開催
招集	SCP が開催日を調整し、招集

iii. 自己評価

会議を開催するにあたり、構成員ならびに学生部長を中心とした教員と事前に議題について連絡・協議しておくことで、会議は比較的スムーズに進行し、おおよそ一致した結論に結び付けることができた。

学部間のカリキュラムの違いやキャンパス間の移動時間などを考慮すると、月 2 回の開催は困難であった。実際には定期の SCP 会議は数回しか開催しておらず、議題についてメール、電話を中心に SCP 間で連絡を取り合い、総括を SCP 数名と事務職員とで協議することとなってしまった。メール、電話等での協議では構成員全員が同時に協議することが不可能のため、十分な協議ができなかつた可能性はあるが、任期の短いという SCP の特性を考えるとこのスピード感は良い方に働いたのではないかと感じている。

構成員の中心である SCP がその年度毎に最適の開催方法を確認し、定期開催と臨時開催をうまく使い分けることにより良い協議を進めていくことが求められる。

III. 学生アンケート実施

i. 目的

学生のニーズあるいは大学改革の必要性を調査し、SCP の活動方針を検討する。

ii. 方法

- ・対象は全学部学生とした。
- ・各キャンパスの掲示板（当別キャンパス 9 ケ所、あいの里キャンパス 3 カ所）に、意見募集の掲示と意見箱を設置した。また、電子メールによる投書も可能とした。
- ・投書の様式はメモ用紙に自由に書き込む方式を採用した。
- ・募集期間を 10 月 8 日（水）～15 日（水）（8 日間）とした。

iii. 結果

- ・期間中は合計 186 件の投書があり、その後もメール等で意見が投函され続け、合計は 200 件を超えた。
- ・全投書の内訳は別紙 1 の通りであった。
- ・投書内容を精査し、一番多い件数が寄せられた「食堂に対する不満」を全 SCP 共同の改善プロジェクトとし、その他の改善すべき内容は学生支援課経由で大学へ改善を要求し、関係部署より回答を得た。

iv. 自己評価

学生のニーズに応える学校改革という観点から考えると、全学生を対象に意見を募ったのは適切であり、食堂改善という活動方針を決定する要因にもつながった。また、SCP 制度の学内周知にも繋がり、学生が大学に対して抱く期待や不満を調査することができた。

投函数が若干少なめであったのは、SCP 制度が開始して間もなかったことの影響であると思われるが、今後 SCP 活動を通して改善が進行していくたり、改善が実現しなくても学生の意見に対してきちんと対応した上で回答を戻すことで、学生の SCP に対する信頼感や期待が高まり、完全な学生参画型大学改善が実現するものと思われる。

IV. 食堂改善プロジェクト

i. 概要

大学の設備・サービスに関する意見で一番多かったものは食堂に関するものであった。これを受け、SCPは全員共同の大学改革企画として「食堂改善プロジェクト」を立ち上げ、全学生及び教職員、大学関係者にアンケートを実施した。結果、1,223件（全体の34.5%）の回答が得られ（別紙2）、これをもとに食堂の問題点を検討した。また、SCPは本学内に設置されていた食堂等利用者協議会の構成員として参加し、その代表として食堂業者と数回にわたる意見交流会を通して改善策について協議した。

ii. 活動内容

日 程	活 動 内 容
2008.10.28	アンケート結果について報告ポスターの作成・掲示 食堂改善を推進することを学内周知する目的でポスターを掲示
11月下旬	札幌学院大学、北海道大学、札幌医科大学、北星学園大学の食堂視察 (薦 SCP 他学生3名)
12. 1~12.12	食堂改善に特化したアンケートを全学生及び教職員を対象に実施
12.12	『食堂の現状について学生との情報交換会』開催 食堂に対する不満・要望などを直接聞き取り、改善案について協議
2009. 1. 7	食堂業者、大学事務職員（食堂担当部署等）との顔合わせ 名刺交換及び歓談を行い、今後より良い食堂づくりへの協力を要請
2.12	『第一回食堂等利用者協議会』出席 「食堂改善プロジェクト」をSCPが主体となって進めることが了承される
2.20	『第一回食堂業者等との意見交流会』開催 食堂改善に関するアンケートの結果を提示し、食堂業者側の意見・感想等を聴取
3. 9	『第二回食堂業者等との意見交流会』開催 食堂改善に関するアンケート集計結果に対する各食堂業者の返答を得る SCPより食堂改革案を提出し、内容について協議
3.18	『株デンショクとの意見交流会』開催 中央食堂、20周年記念会館食堂での個別改革案について協議
3.19	『株日総との意見交流会』開催 ビストロスマイル食堂、札幌あいの里キャンパス食堂での個別改革案について協議

iii. 成果

食 堂	改 善 内 容
中央食堂	<ul style="list-style-type: none">・内装の改修（壁紙交換や網戸の設置など）・新品コップへの交換・SCP 参加の共同メニュー開発・コーヒーディスペンサーの導入予定（コミュニティースペースとして開放）
20周年記念会館食堂	<ul style="list-style-type: none">・券売機の設置・レディースメニュー・メガ盛りメニューの導入・新品コップへの交換・期間限定企画（お弁当販売やバイキング開催等）の実施を検討
ビストロスマイル食堂	<ul style="list-style-type: none">・期間限定メニュー やフェアメニューの導入・混雑緩和に向け座席のレイアウトや配膳時の動線の見直し
あいの里キャンパス食堂	<ul style="list-style-type: none">・メニューのカロリー表示・テーブル布巾の設置・券売機の移設を検討・食堂ピーク時以外でのカフェスペースとしての活用を検討中
全食堂	<ul style="list-style-type: none">・箸アンケート（※）の実施

※「箸アンケート」とは、下膳時に出る箸を利用したアンケート集計であり、食堂利用者がサービス内容に対して○あるいは×のどちらかに投票させるシステムで、それぞれの重量によってその食堂の満足度を調査するものである。満足度の経時的变化を調査することができるため、前日の結果を上回るよう従業員の意識改革につながり、実際に効果が出始めている。

iv. 自己評価

「食堂改善プロジェクト」は2008SCPのメインプロジェクトであり、短い期間ではあったが、関係者の方々の協力もあり、かなりの改善を実現させることができたと感じている。食堂改善に関するアンケートの集計結果から、学内の食堂に対する意識の高さを伺えるが、全てのニーズを満たすことは難しいため、私的な感情から改善内容が片寄ってしまった可能性がある。SCPは食堂等利用者協議会の構成員ともなったことから、引き続きSCPが中心となって食堂改善の評価あるいは更なる改善への是非について追跡調査を行い、より良い食堂づくりを推進していくことが必要であると考えている。

また、時間の都合上2008SCPでは成し遂げられなかつた、学生参画型共同メニュー開発や食堂の視察見学、試食会の実施などは次年度以降のSCPへの引き継ぎ業務として、実施していくことを考えている。

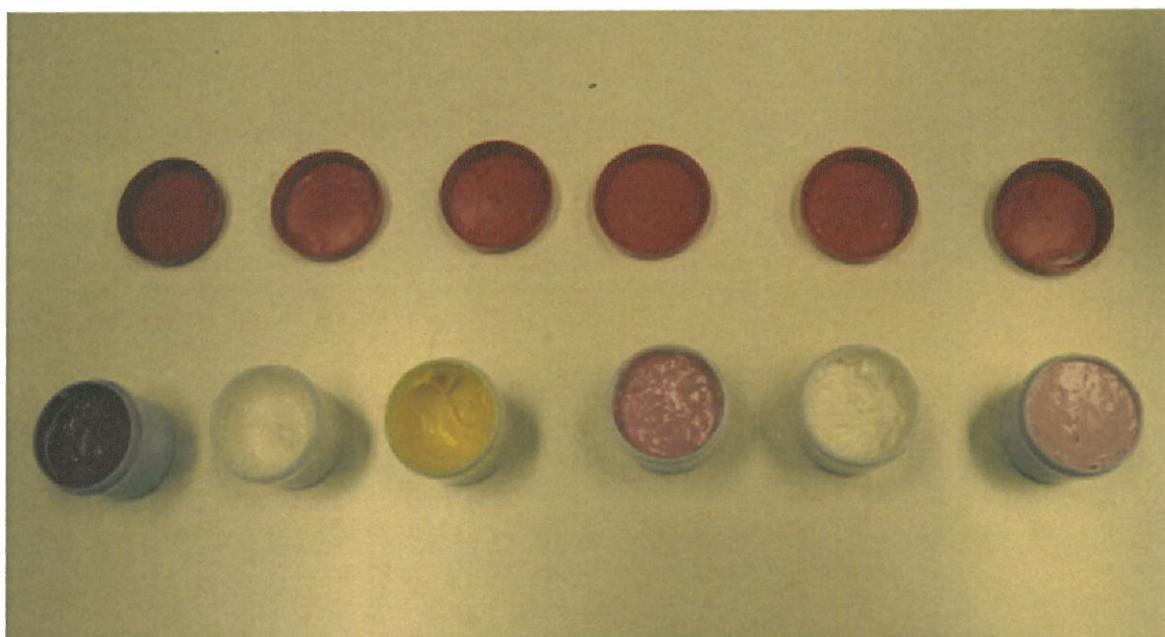
V. 大学ブランド商品の開発

i. 概要

本学には大学ブランドのオリジナル商品が販売されていない。医療系総合大学と自然に恵まれた地域特性を本学のブランド力と考え、薬用植物を利用したオリジナルハンドクリームを開発し、商品化を目指している。

ii. 活動内容

薬学部創薬化学講座（生薬学）及び本学付属の薬草園の協力のもと、抗炎症作用や抗菌作用を有する薬用植物を中心にその有効成分の抽出を行い、数種類のハンドクリームを製造した。また、商品化へ向け、北海道庁内の医務薬務課を訪問し、薬事法の規制や申請方法等について伺った。今後はメーカーの協力を得て、学内での試供品配布などにより製品のモニタリング調査を実施し、マーケティングへと展開していく考えている。



iii. 自己評価

オリジナル商品の開発は大学のブランド化には大変効果的であると考えられる。また、セルフメディケーションの考え方方が拡がっている昨今の実情や、本学で栽培されている薬用植物を用いて学内販売を行えば、地産地消にも繋がるということなどを考えれば、ハンドクリームは良いアイデアであると考えている。しかし、化粧品は薬事法の規制対象になってしまい、商品化へ時間がかかるという問題があった。大学のロゴ入り商品など開発が楽な商品も並行させて提案し、短期的と長期的の両方の側面から推進していくべきであったと感じている。

VI. 成績向上プロジェクト

i. 概要

本学では国家試験合格率を少しでも向上させることが大きな目標の一つである。今まで本学には無かった新たな勉強法を SCP が提案して、学習方法の選択肢が広がることで学生の学習意欲を少しでも促進させることができるのでないかと考えた。まずは薬学部から提供して学生の反響や学習効果を調査し、その後他学部へと同様に展開していくことを考えている。

ii. 活動内容

- ・SCP 本編集委員会を設置し、大学生向け学習補助教材として参考書を作成、販売する。
具体的には、第 1 段階として、学内学生向けに自費出版での作成、販売 or 無料配布を目指す。なお本プロジェクトではあくまで学習方法を提案することに主眼を置いていたため、教材は国家試験の過去問題と既存テキストを用いている。

iii. 問題点

- ・著作権：参考書として既存テキストを使用しているため、出版社へ接触し著作権について確認及び協議する必要がある。
- ・学内同意が得られるか：既に学内で組織されている国家試験ワーキンググループを始め、各教職員から同意が得られるか調査する必要がある。

iv. 自己評価

教職員が学習を促進しても、学生は反発心からなかなか学習意欲の向上へとつながらないのが現状である。同じ立場である学生から提案することで、学生が少しでも勉強に取り組み易くなればと考えている。

選択肢は多い方が良いと思うので、著作権や学内コンセンサスの問題を早急に解決し、一日でも早く学生の手元に届けて、成績向上へとつながることを願っている。

VII. 薬物乱用根絶プロジェクト

i. 概要

昨今、社会問題となっている青少年による薬物乱用に対して、医療を志す学生が啓発活動を行う。本プロジェクトでは有志学生による勉強会・講演会等を考えており、自身の薬物に対する知識を深める場としても活用したい。

ii. 活動内容

・メンバー募集

掲示や口コミ、スカウトによりメンバーを集め、勉強会を立ち上げた。以後、当会を「薬物乱用対策勉強会」と命名し、現在10名の活動員を構成する。

(活動員：廻智章、斎藤芳敬、加藤翔、桜庭好祐、都倉亮明、富田侑希、長本香奈子、原田文也、藤田祐介、山口優)

・薬物乱用対策の勉強会開催

大学祭での研究発表を目指し、メンバー同士の勉強会、ならびに、学内の専門の先生との勉強会、北警察署への訪問し現場の状況を拝聴し、様々な薬物関係の質問をした。

・大学祭での研究発表、ならびに専門の先生の講演会

大学祭において、薬物乱用に対するプレゼンテーション発表や、掲示発表、専門の先生の講演会を開催。また、薬物乱用対策広報車「まもるくん」の展示をした。

(講師陣：中山章先生・東城庸介先生・札幌方面北警察署)

iii. 今後の活動予定

・学内に向けての啓発セミナーの開催

薬物防止運動を行っている団体や元薬物中毒者、ダルクなどの講演会を開催し、参加者へ正しい知識・情報・身近な体験談などを伝え、危機感を持たせたい。個々の意識をより高めるために、コンピュータを利用して質疑応答をその場で行えるよう工夫したい。

・学外に向けての啓発セミナーの開催

学外、地域社会に向けての薬物乱用に対するプレゼンテーション発表や、現物・写真・症例などの展示発表を行う。

iv. 自己評価

大学祭における学生の講演参加者や薬物乱用対策勉強会メンバーの少なさから本学学生の啓発活動への意識が低いことが伺える。本学学生が大麻取締法違反（所持）の疑いで逮捕されたことを鑑みて、本プロジェクトのより一層の推進と学内活動の重点化を目指したい。

VIII. その他のプロジェクト、活動

①名札作成

大学構内での盗難、殺人事件などの犯罪が全国で見られ、来訪者の多い本学においても対策を講じる必要がある。学外者と大学関係者を判別するために名札を作成し、着用を義務づける計画である。また、学生・教職員の大学への帰属意識を高め、より良い大学づくりのための土台構築を目指す。

②消毒液設置

新型インフルエンザの学内流行によって、休校や大学祭の開催中止などの措置が講じられると、医療系大学のブランド力が低下する恐れを感じた。医療施設などを優先させていたために、本学で消毒液が手に入らなかつたため、薬学部を中心に有志学生スタッフによって消毒液を手作りし、構内 18 カ所（当別キャンパス 15 カ所、あいの里キャンパス 3 カ所）に設置した。

③学生名刺作成プロジェクト

学生に社交マナーを備えさせ、社会で通用する学生の育成を目指す。名刺については、大学ブランドの商品として販売することも考えている。

④学部間交流プロジェクト

医療系総合大学という特色を生かして、学部を越えた意見交流を通してチーム医療の先駆けを行い、学生の視野拡大を目指す。

⑤SCP 掲示板の設置

SCP 専用の掲示板を学内に設置（当別キャンパス 3 カ所、あいの里キャンパス 1 カ所）し、SCP からの連絡事項の掲示の他、学生からの SCP や大学に対する質問・意見等を貼り、それに対し SCP が答える「コミュニケーションボード」として活用している。

⑥「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援

SCP からの助言や提言、また、SCP が在学生や卒業生を対象に実施する調査結果に基づくニーズを今後のキャリア形成支援・就職支援に反映させることを目的とし、併せて、従来の大学から的一方的な指導から双方向型の支援体制を構築するものとして、平成 21 年文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択された。本取組により、社会に求められる豊かな人間性の涵養やコミュニケーション能力、課題探求能力等、学士力の向上を図るとともに、学生の自主的な活動の充実に向けた支援が可能となることが期待されている。

⑦環境保全対策委員会

2008年度制定された「環境保全規程」に基づき環境保全対策委員会が組成され、SCPも当委員会の構成員として、①省エネ化（消灯の徹底・室温の厳守等）、②省資源化（紙資源・水資源の有効利用等）③廃棄物削減等（廃棄物の再利用化等）を中心に協力していく。

⑧学内行事への参加

キャンパス内クリーン作戦への参加による学内禁煙推進への協力やオープンキャンパスにおいて来校者への挨拶や各学部プログラムへの参加、個別進学相談の学生ブース担当など学内行事に参加した。

⑨広報活動

SCPブログやSCP掲示板、学内掲示板、配布物等によってSCP活動を積極的に学内周知させた。また、本学広報誌（ADVANCE）や2009年度の学生便覧及びMESSAGEに記事を掲載したり、北海道新聞や進研アド（Between）、金沢大学、名城大学、FM北海道（AIR-G'）からの取材にも対応して学外周知にも努めた。